



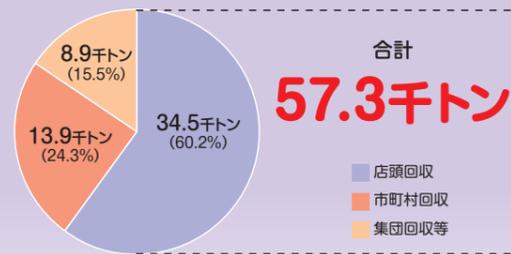
# 小売事業者のリサイクル状況

店頭回収は身近で重要な回収拠点です。

2009年度の店頭回収は34.5千トンで、これは前年比1.1千トン増、家庭系紙パック回収量全体の60%を占める結果となりました。

その内訳は、日本チェーンストア協会の回収量が減少、日本生活協同組合連合会がほぼ横ばい一方で、中堅・小規模のスーパーマーケットの回収量が大きく増加しました。スーパーマーケットの店頭回収が中堅・小規模のチェーンまで、広がってきているものと思われます。

家庭系紙パックの回収拠点別回収量(推計値)



## 取り組んでいます! リサイクル

株式会社 セイコーマート  
(本社 北海道札幌市)

**取り組み事例** 北海道全域および茨城、埼玉で店舗展開する「セイコーマート」では、2005年から消費者がリサイクルを実感できる”参加型リサイクル”を推進しています。そのしくみは、対象商品の紙パック(1,000ml)20枚または卵の空き容器30枚を持参すると、オリジナルのボックスティッシュ1箱に交換するというもの。チラシや新聞広告による広報活動もさかんで、集めた紙パックが製品として再生されたことを実感できることも手伝って、回収率は年々向上。今では66%の牛乳パックが回収されているとのこと。

また古新聞や古雑誌、ダンボールの店頭回収も行っており、「セイコーマートは環境への取り組みが熱心」というイメージが定着。リサイクルを通じてお客さまにメリットを還元するという理念がしっかり根付いています。



回収された牛乳パック



わかりやすいチラシでリサイクルのしくみを紹介

# 福祉作業所の回収状況

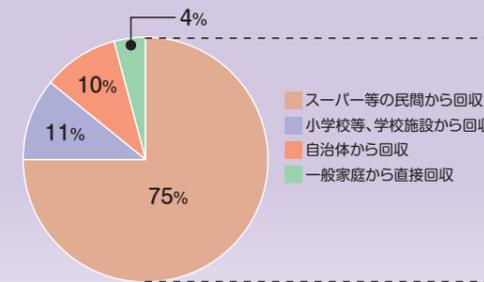
一般家庭、スーパーマーケット、小学校などさまざまなところで回収しています。

本年度も福祉作業所と市民団体に、紙パック回収量のアンケート調査を実施しました。

推計回収量は約1千トンに達します。これらの回収元は、直接家庭からだけではなくスーパーマーケットや小学校、市町村など、福祉作業所・団体ごとに様々です。

福祉作業所・市民団体から回収元に関する回答があり、その比率をみるとスーパーマーケット等からの回収が3/4を占めています。

福祉作業所、市民団体の紙パック回収量に占める回収先割合



## 取り組んでいます! リサイクル

尼崎パックルネット  
(兵庫県尼崎市)

**取り組み事例** 尼崎パックルネットは、容器包装リサイクル法施行時(1997年)に「尼崎消費者協会」「大庄街づくり協議会」「みんなの労働文化センター」の3団体が紙パックの効率的な回収システムを作ろうと結成された組織です。障害者作業所を運営する「みんなの労働文化センター」が拠点回収・店頭回収を行っており、回収拠点は約170ヵ所、回収量は年間約60トンとなっています。また「尼崎消費者協会」は、スーパーへの回収協力依頼など営業的な活動をしています。

紙パックから再生されたトイレトペーパー(ただいまロール)、ティッシュ(おかえりティッシュ)は系列の「関西ミルクロード」で販売し、再生品の利用促進にも力を入れています。また、尼崎市環境市民局と連携し、同市小学生を対象とした環境学習の講師として、紙パックリサイクルの啓発活動にも積極的に取り組んでいます。



小学校での回収では、子どもたちも積極的に参加



小学校での環境授業風景



# 市町村回収・集団回収の状況

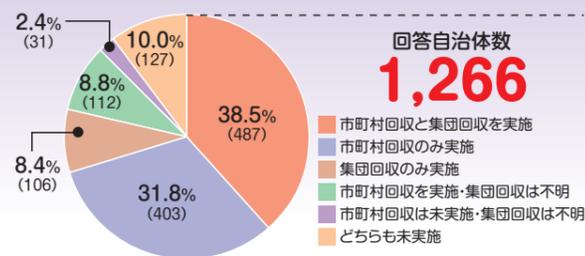
全国の約9割の市町村で紙パックの回収に取り組んでいます。

2009年度も前年度と同様、正確な実態把握のため、東京特別区を含めて全国1,750市町村すべてを対象に調査を実施。このうち1,266市町村から回答を得ました。人口比率で見ると88.6%になります。

調査では、市町村や一部事務組合などが行う収集を「市町村回収」、市町村に登録された住民団体による回収を「集団回収」としています。

ステーション回収・拠点回収などの市町村回収と、集団回収の実施率は前年度とほぼ同じで、市町村回収の実施率は79%、集団回収は不明を除いて47%でした。また、約4割が市町村回収と集団回収の両方を実施しています。

市町村回収と集団回収の実施率



町村での1人あたり回収量が多くなっています。

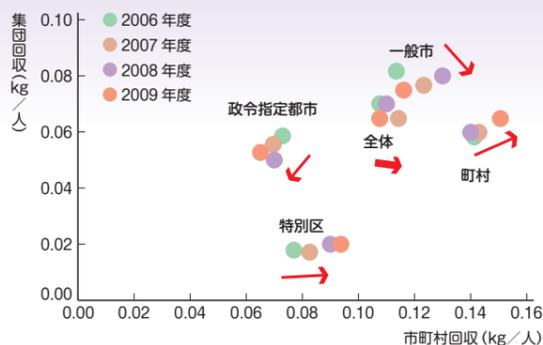
市町村回収量と集団回収量は、都市類型別に「一般市」「政令指定都市」「東京特別区」「町村」の4つに分けて推計しています。2009年度は市町村回収量が13.9千トン、集団回収量が8.4千トンとなりました。

1人あたりの回収量は、日本の人口の2/3を占める一般市が市町村回収と集団回収の両方で多く、町村は市町村回収が多くなっています。

都市類型別の市町村回収・集団回収推計回収量

	全体	一般市	政令指定都市	特別区	町村
市町村回収					
推計量(千トン)	13.9	9.6	1.6	0.8	1.8
都市類型別回収推計量比率	100%	69%	12%	6%	13%
1人あたりの回収量(kg/人)	0.109	0.118	0.066	0.095	0.153
集団回収					
推計量(千トン)	8.4	6.1	1.3	0.2	0.8
都市類型別回収推計量比率	100%	73%	16%	2%	10%
1人あたりの回収量(kg/人)	0.066	0.075	0.053	0.020	0.066
都市類型人口(百万人)	127	81	25	9	12

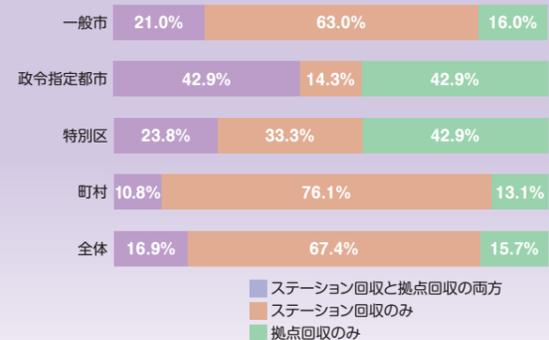
市町村回収と集団回収の都市類型別原単位の推移



全体の2/3が、ステーション回収を実施しています。

市町村の回収方式には、ステーション回収(戸別回収を含む、いわゆる分別回収)と拠点回収の2つに分けられます。拠点回収に比べて利便性の高いステーション回収は、未実施市町村を含めた全体では2/3が、市町村回収を実施している市町村では8割以上が採用。特に一般市や町村の実施率が高くなっています。

都市類型別・回収方法の比率



## 取り組んでいます! リサイクル

### 北海道旭川市

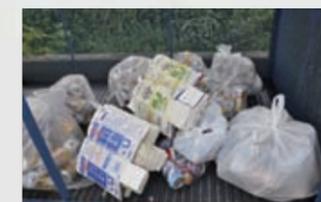
#### 取り組み事例

北海道で札幌に次ぐ第2の都市として、人口35万4千人を擁する旭川市。改正容器包装リサイクル法にともない、2年連続で分別基準適合物の品質評価として、ランクAの評価を受けています。紙パックは平成8年に5分別回収を実施した当時から分別品目にあげられており、分別が13品目へ増えた今も、回収量は堅調に増加。ちなみに13分別を実施する前に、各地域で講座による啓発活動を行ったことが、回収量増の要因にもなっており、現在、年間214トン(平成21年度)の回収量となっています。

回収にあたっては、市民に親しみがわくよう、人気の旭山動物園の動物が描かれたバッカー車で収集したり、介護が必要な高齢者には戸別回収(有料)を実施したり、といった工夫も。また厳しい冬の時期にも、町内会でステーションの雪かきを行い、回収がスムーズに行われるような協力体制が取られています。



レッサーパンダが描かれた紙パックの収集車



きれいにまとめて出されている紙パック



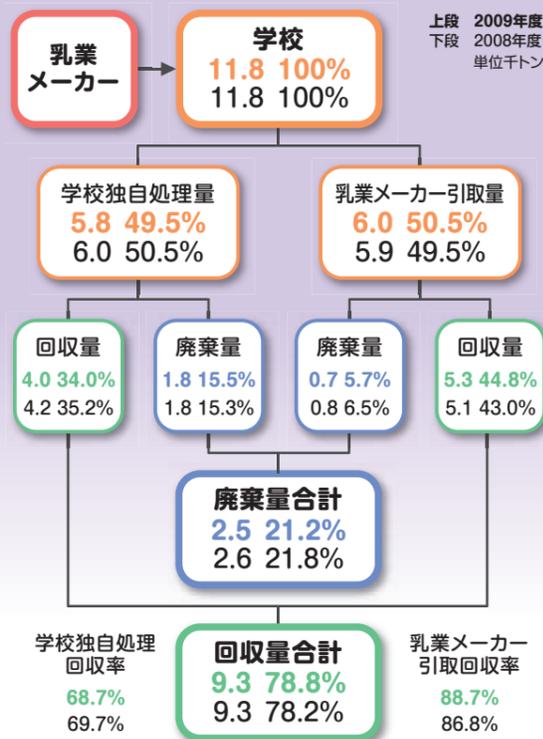
# 学校のリサイクル状況

# 再生紙メーカーのリサイクル状況

学乳紙パックの  
約8割が回収されています。

学乳紙パックの回収量と回収率は、前年度とほぼ同じでした。2009年度の学乳紙パックの総量は前年度と同じく11.8千トンで、79%にあたる9.3千トンがリサイクルのために回収されました。学校が独自で処理をする量と乳業メーカーに引き渡す量はほぼ同じですが、学乳紙パックの回収は高い水準で維持されています。

### 学乳紙パックのマテリアルフロー (推計値)



※学校独自処理とは、学校が自治体や古紙回収業者などに直接引き渡すことを指します。  
※四捨五入しているため、合計と一致しない箇所があります。

## 取り組んでいます! リサイクル

### 川口市立戸塚南小学校

(埼玉県川口市)

**取り組み事例** 市内で一番新しい開校6年目の戸塚南小学校は、雨水の利用や太陽光発電など、環境に配慮された「エコスクール」。校内では独自の環境通貨「エコチケット」を作成し、緑化活動などの環境活動も行われています。

平成17年から行っている学乳紙パックの回収ですが、それだけでは採算性に問題が出るため、市民環境会議の協力を得ながら資源回収業者と協議。毎月第4金曜日を「紙の日」として、牛乳パックとともに家庭からの古紙も回収しています。

平成22年の1学期の回収量は、牛乳パック240kg、古紙類6,140kgで、回収した紙はトイレトペーパー852個に交換され、校内で使うすべてをまかなうことができました。なお、この「紙の日」の参加小学校は市内47校中12校に広がっており、合同回収することでコスト低減を図っています。



“洗って、開いて、乾かして” 保管される学乳紙パック



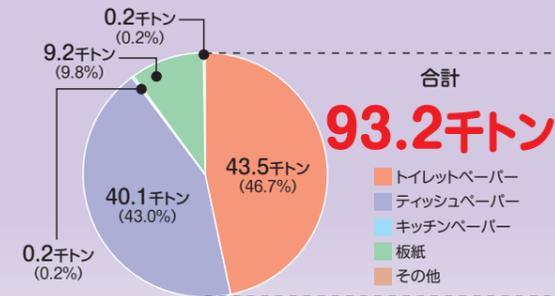
集めた古紙はトイレトペーパーと交換

再資源化製品は  
約9割が、トイレトペーパーと  
ティッシュペーパーに。

アンケートで回答を得た25社の再生紙メーカーのうち、国内で発生した紙パック損紙・古紙あるいは使用済み紙パックを受け入れているのは19社でした。

国内回収分と紙パック古紙輸入分をあわせた紙パック総量は117.1千トンで、前年度から3.9千トン減っています。しかし総量のうち、約8割の93.2千トンが再資源化されて製品になっており、このうち約9割がトイレトペーパーとティッシュペーパーの2大製品になっています。

### リサイクル製品への利用状況



## 取り組んでいます! リサイクル

### 丸富製紙 株式会社

(本社 静岡県富士市)

**取り組み事例** 1955年設立の丸富製紙(株)は、静岡県富士市に位置し、日本で初めて牛乳パックのリサイクルに取り組んだ企業として有名です。工場は県内の5ヵ所にあります。同社は1982年から牛乳パックの産業古紙を原料としたリサイクルを始めていましたが、1984年に山梨県市民グループ「たんぼぼ」の平井初美代表(前全国パック連代表)の要請により、一般家庭から回収された牛乳パックを使い始めました。

現在、牛乳パックの回収量は市中での直接回収だけで年間約400トン、仕入れ分や工場損紙を含めると年間約2万6,400トンにも達し、これらはすべてトイレトペーパーなどに再生されています。

製品納入の帰り便を活用した効率的な回収や工場見学者の積極的な受け入れ、さらにはFMラジオを利用して朝の時間帯に牛乳パック回収CMを流すなど、さまざまな工夫を行い、回収率の向上に日々努めています。



牛乳パックの現状が記された社員向け資料



工場見学の様子